仲間と仕立船で沖釣りホリデー！

ツリトモさん いらっしゃ～い！

釣友

Charter boat fishing to enjoy with friends.

vol. 1 MITSUJIMARU

●撮影・文／古河好夫

新連載

釣友 ツリトモ Fishing Friend

第1回のツリトモ

●取材でお邪魔させていただいたのは、神奈川県横浜市の野沢洋光さんが幹事を務めるグループ。釣り物はマルイカです。

三浦半島諸磯港 光二丸のマルイカ

マルイカは釣趣、食味ともに満点

城ケ島西沖のマルイカ 今年は期待度◎

今回から始まる新連載「ツリトモさん いらっしゃ～い！」は仕立船を利用して仲間や家族と沖釣りを楽しむ釣り仲間をご紹介。

初回は神奈川県横浜市の野沢洋光さんが幹事を務めるグループがマルイカで仕立てた三浦半島諸磯港の光二丸にお邪魔させていただいた。

釣行日は3月30日。当日は3名での利用で皆さんゼロテンでマルイカを狙うという。幹事の野沢さんは大のイカ釣りフリークで、マルイカのほかスルメやヤリイカなどイカ釣りしかやらないそうだ。

6時に出船。出口光一船長に釣り場をたずねると城ケ島西沖の水深70～80メートルとのこと。20分ほどで到着して水深70メートルで開始となった。

野沢さんが手にする竿の穂先は自作したもので驚くほど細く軟らかいゼロテン仕様。7本のスッテがセットされた仕掛けは上5本は直結、下2本は直ブラになっている。良型のマルイカは下2本の直ブラに乗ることが多いという。

今年は好調が伝えられる三浦半島のマルイカ。すぐに顔が見られるかと思ったが、触りはあるものの合わせても掛からない状況が続く。

最初の1杯が上がったのは開始から1時間ほどたったころ。胴長10センチほどのマルイカを野沢さんがキャッチ。その後はポツポツと上がり始め、マルイカはこれで3回目という神谷さんは珍しいことに300グラム級のスミイカを釣り上げた。

スミイカはハモノにかじられた跡があり、同じタイミングで野沢さんも巻き上げ中にイカを取られたそうだ。

「おそらくマダイかワラサの仕業でしょう」と船長。

時間がたつにつれマルイカの乗りはよくなり全員が本命をゲット。胴長15センチ級も上がり船上は盛り上がりを見せる。

船長にマルイカ釣りのコツを聞くと、

「ウチで一番うまい野沢さんに聞いてください」とのこと。

野沢さんの釣り方は、着底したら糸フケを取り、オモリを底に着けた状態でタタキを入れてポーズ。ここで触りがあれば合わせ、なければ竿先を大きくシャクリ上げ、底にオモリを着けている間に船が流れて船下からずれた仕掛けを戻す。

「まずは時合を逃さないことですね。それと巻き落としを織り交ぜることも大事です。違う所

城ケ島沖のマルイカは今後も期待度◎

良型のマルイカを連発する野沢さん

▲釣ったマルイカは海水循環させたオケで生かしておける

この日の1杯目は幹事の野沢さん

オモリを底に着けたままタタキを入れてイカを誘う

◀野沢さんの竿の穂先は自作したもの。驚くほど細くて軟らかい

▲合わせが決まりイカの重みが乗った瞬間はまさに快感

一荷で上がる場面もあり楽しい一日となった

▲幹事の野沢さんが筆者のために作ってくれたマルイカの刺身。甘みが強く極上の味わいだった

オモリは50号を使用した

スッテは3～4センチ前後のシンキングタイプ

◀城ケ島沖や剣崎沖のマルイカは8月までロングラン

好日に当たればトップで40～50杯は期待できる

ゼロテンで釣るマルイカはゲーム性の高さで人気がある

▲甘くとろけるような味わいのマルイカ。ぜひ味わってみてほしい

▶時合が訪れると掛けまくる野沢さん

胴長 25 センチ級の良型も上がった

珍しやスミイカがハモノにかじられて上がってきた

にスッテが入るのでよく乗ってきます。私の場合は5メートルほど巻き上げてから落としています。タタキは状況によって強弱を付けます。今日みたいな深場では強めですね。弱いとスッテが動きません」と野沢さんが教えてくれた。

胴長25センチ級の良型も登場！入れ乗りになる一幕も

中盤戦に入ると野沢さんが入れ乗りを披露し胴長25センチほどの良型も取り込んだ。

「今年は去年より明らかにいいですね」と言って笑みを見せる。

そんな野沢さんが私のために釣ったマルイカをその場で刺身にしてごちそうしてくれた。その味は甘みがこのうえないほど強く絶品であった。ごちそうさまでした。

後半になるとイカの乗りは落ちてしまったが、それでも野沢さんは22杯を釣り上げ、ほかの2人も楽しめたようで全員笑顔での帰港となった。

野沢さんたちのグループが光二丸を利用するようになったのは5年前からだそうで、月イチで乗船しているという。

「船長が優しくまじめでイカの反応が薄いときでも一生懸命探してくれるところが好きです」と野沢さん。ご協力ありがとうございました。

◇

さて、4月中旬以降の光二丸のおすすめだが、まずはマルイカ。例年5月に入ると城ケ島沖や剣崎沖の水深50メートル前後で楽しめるようになる。

「トップで40～50杯なんていう日もあると思います」と船長。

また、釣れたヤリイカを泳がせてハモノを狙うのも人気があり、マダイやカンパチ、マハタなどが上がるそうだ。

マダイは乗っ込みの真っ最中。釣り場は剣崎沖の水深40～50メートルで1～2キロ級主体に日によっては5～6クラスも上がるという。まさに大ダイ狙いのチャンスといえよう。

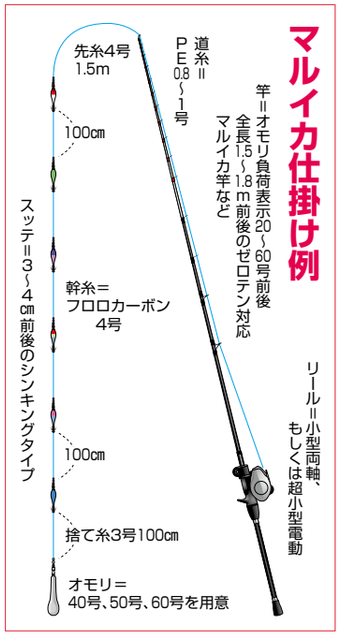
城ケ島沖のイサキも狙い目。水深30～50メートルのポイントで20～30センチ級主体にいい日はトップで30尾ほどの釣果が上がるそうだ。

6～7月にかけては諸磯沖の水深10～15メートルを狙うカサゴもおもしろく25センチ前後がそろう。釣り方は簡単、30センチ級のアカハタも交じるそうなので、ビギナーにもおすすめとのこと。

出口光一船長は優しい人柄で実に親切。釣り仲間はもちろん家族連れの釣行にもおすすめしたい船宿だ。

もちろん投入器は無料で借りられる

マルイカ仕掛け例



釣友 ツリトモ Fishing Friend

4～5月は乗っ込みのマダイが本番を迎え大型の期待大です。今年はマルイカの模様もよく今後は浅場で楽しめるようになるのでぜひ遊びにきてください！

▲出口光一船長

▲光二丸の船宿は乗船場から車で5分

○三浦半島三崎諸磯港

光二丸

MITSUJIMARU

•Misaki-Moroiso Port, Miura Peninsula

☎046・881・5508（詳細は巻末の情報欄参照）

三浦半島の南西部、諸磯港から出船する光二丸は相模湾の様ざまな人気ターゲットを2隻体勢で楽しませてくれる船宿。手入れの行き届いたレンタルタックルも用意され、別料金になるが仕掛けやエサなども事前に伝えておけば用意してくれる。リレー釣りも可能なので一度で2倍おいしい思いをしたい人は船長に相談してみるといいだろう。休日も5名から受け付けてくれるので少人数のグループにもおすすめだ。

料金プラン

■第7光二丸（7.9トン、最大22名まで）、平日＝5名まで4万1000円。1名増えるごとに7500円。土日祝日＝5名まで4万5000円。1名増えるごとに8000円（キハダやカツオなどは別料金。電話にて確認）

■第5光二丸（5.75トン、最大15名まで）、平日＝4名まで3万5000円。5名まで3万8500円。1名増えるごとに7000円。土日祝日＝5名まで4万1000円。1名増えるごとに7500円（キハダやカツオなどは別料金。電話にて確認）

11名以上で乗船の場合は1人1000円の割引あり。リレー釣りも可。沖揚がり後に乗船場または船宿で精算。

利用ガイド

【予約方法】
メールでも受け付けているが、電話にて日程、人数、希望の釣り物などを伝えて日取りを確保するのが確実。

【出船時間】
日の出より出船可能で、時間は希望に対応。釣り時間は出船から帰港まで最大8時間。組合の規定で午後4時までには帰港。

【エサ、氷、仕掛けなど】
氷は料金込み。仕掛けとエサは別料金。

【レンタルタックル】
手巻きリールのセットは500円。電動リールのセットは1000円。

【集合場所】
乗船場に集合。

【備考】
オリジナルステッカーをプレゼント。

【船宿アクセス】
三浦縦貫道高円坊出口下車、出口を右折。国道134号、県道26号を経由して諸磯港へ。

◀レンタルタックルは電動リールと手巻きリールのセットがある

第7光二丸は12名までが釣りやすいと船長

第5光二丸は8名までが釣りやすいとのこと

釣り物＼釣期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カツオ								■	■	■		
マグロ								■	■	■		
ワラサ							■	■	■	■		
カワハギ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
マダイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
アジ五目	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
オニカサゴ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
スルメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
イサキ				■	■	■	■	■				
アマダイ	■	■	■						■	■	■	■
ヤリイカ	■	■	■	■							■	■
マルイカ		■	■	■	■	■	■					
クロムツ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
キンメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■本誌「船宿データベース」に加盟している仕立船を利用されている釣りグループの幹事さん、よろしかったら取材でご一緒させてください！
◎つり情報☎ 03・5839・2561、E-mail ／ tsurijohosya@gmail.com までご一報ください。